

Rise

ライズ

労働者・兵士ともに起ちあがろう！

— 自衛官との団結は職場の団結から始まる —



発行：労働者兵士行動委員会

URL：http://www.rise-rou-hei.info/wp/ Email:rou_hei_rise@yahoo.co.jp Tel.090-8961-0141

〒105-0004 東京都港区新橋 2-8-16 石田ビル 4 階 年会費：2000 円 会員外年間定期購読料：1200 円

● 組合潰し・民営化・非正規職化を核心とする新自由主義は、コロナの前から地球環境も労働者民衆の命と生活も破壊してきた。それ故、利権まみれのオリ・パラ強行によってコロナ感染爆発とさらなる医療崩壊を引き起こし、膨大な人命を奪ってきた安倍と菅は労働者民衆の怒りの爆発で打倒され、新たに登場した岸田新内閣は「新自由主義からの転換」などと言っていますが口先だけです。事実、「経済安全保障戦略」を柱に据え、「防衛費の2倍化」「任期中の改憲」「敵基地攻撃能力の保有」で、改憲・戦争国家化です。しかも、世界を巻き込んだ米中対立が激しく戦争化し、資源や市場をめぐる争奪戦も熾烈化しています。国家財政・年金制度・エネルギー・食糧自給も、破綻寸前の日帝には新自由主義政策の絶望的展開以外に道はありません。こんな政権や社会は世界の労働者階級の団結で根底的に打ち壊す以外に人類と地球の未来はありません！

● 岸田が首相に就任した前日、和歌山市・紀の川に架かる全長546メートルの水管橋が突然崩落し約6万戸が断水しました。水は命と生活に直結し

巻頭言

改憲・戦争阻止！階級的労働運動の力で新自由主義を終わらせよう！

東京西部ユニオン（元自衛官） 杉橋幸雄

● そうした最中、自衛隊は「台湾有事」を想定した対中国の過去最大規模の軍事演習を強行し、九州・沖縄・南西諸島を中心に陸海空約10万人、車両約2万両、航空機約120機、在日米軍も加わり、JRをはじめ民間も動員しています。さらには、台湾海峡をめぐり米空母打撃群を中心に米日英仏豪などの共同軍事訓練や、欠陥機オスプレイの本格的な飛行訓練も強行しています。しかも岸田政権は「国家安全保障戦略」の改定、「防衛大綱」「中期防」の前倒し改定を打ちだし、「敵基地攻

ています。しかし、全国の水道管を更新するには100年もかかると言われています。しかも、それだけではありません。生活インフラに係る仕事は全世界に広がり労働者が担っています。にもかかわらず、「命より金儲け」が優先され、これとの闘いが世界各地で闘われています。JRの大合理化や関連生支部に対する大弾圧、都立・公立病院の独法化攻撃もわかりです。闘う労働組合の全国ネットワークが絶対に必要です。

● 既に、国内最大級の護衛艦「いずも」は飛行甲板を改修して米軍ステルス戦闘機F-35Bとの離発着訓練を強行し、米軍のアフガン撤退であっても海自護衛艦「ふゆづき」を中東に派兵し、沖縄・先島諸島のミサイル基地化を押し進めています。断じて許すことはできません！

● 根底的な破綻ゆえに一層



デジタル化と沈黙は戦争への道、 団結して声を上げよう！

下田孝雄

まず、自衛官に謝らないといけ
ない過去のことから話します。

私は反戦運動をやり始めた70
年代初め（まだ、ベ平連の端くれ）、
「俺は左翼だ。怖いもの無いぞ！」
という鼻息だった。当時、日本鋼
管浦賀造船所の組合分裂策動の時、



1970年春闘 浦賀造船所の闘い

分裂阻止の動員として行った時の
ことである。門前の分裂推進派は、
資本がウラにいるだけに表向きは
強硬に見えたが実際は日当動員
（6千円）だったことが分かり、
攻撃は脆いものだった。だが、最
前線にいた青年の塊のシュプレヒ
コールには、ある種の迫力があつ
た。

だが、私は即断した。この「青
年団の隊長を潰せば奴らは総崩れ
になる」と！そしてすぐさま「隊
長」の元に詰め寄り、耳元で鼓膜
も破れんばかりの大声で「帰れ！
帰れ！」を繰り返したら奴らが少々
たじろいだ。これを見たらわが陣営
が総出で同じような行動に出た。
これで勝負は決まった。この青年
団は日産の労働組合青年部だった
らしい。

「井の中の蛙」からの脱却

前置きが長くなりましたが、こ

のように闘いに「勝った」私はあ
る種、興奮していた。その勢いで
浦賀軍港に出勤してきたセーラー
服の自衛隊員に「何で自衛隊にな
んかに入ったんだ！」と罵声を浴
びせてしまった。組合に帰った時、
先輩同志から、すぐさま、「あの
言動は、よくない」と指摘された。
そこで私はかの自衛隊員に申し訳
ないと反省しました。「自衛隊員
は軍服を着た農民・労働者である」
が良く分かるようになった。敗戦
直後に生れ、中学校を卒業するこ
ろには職業選択を迫られ、自衛隊
に入ることも一つの選択肢になつ
ていたことを思い出しました。親
や弟たちのための「出稼ぎ労働者・
企業戦士」になるために工業高校
を選んだのではないかと。このこ
とで、『知ったかぶり』の左翼
で威張ることを止めることを決意
しました。また、いかに自分が
「井の中の蛙」であることも思い
知りました。この「井の中の蛙」

的な反省とそこからの発想からの
脱出は並み大抵のものではありま
せん。何しろ生まれた時から資本
主義文化でほとんど資本の考え方
に染まっていた。だが、世間は広
い。資本主義に抗する人たちがい
たのである。共産主義者である。
先般、「無罪！」の記事も、「宇宙
から地球を見てきた」みたいな俯
瞰性のある先輩たちの感性に触発
されて書いたものです。

声を上げ、行動しよう！

だが、池田事件（＝池田自衛隊
裁判）における自衛隊によるえげ
つない扱いや、不当な裁判を見聞
するにつけ、そんな現実的な事に
関わらない自分ではあつてはなら
ないと、闘いの陣列に正式に入会
しました。具体的な裁判のことな
ど、まだ書けませんがこのから勉
強します。よろしくお願いいたし
ます。

そこで、私が現在、思っている
ことを述べさせて下さい。

一つは、前菅政権がやり始めた
デジタル化のことです。デジタル
庁は既に発足しているが、その最
初から各資本の分捕り合戦の様相

です。デジタル化とは問い詰めれば戦争への道だと思いません。今、電車・バスに乗ればすぐ分かるように90%以上の人がスマホにかじりついていきます。この様相を見れば、「この社会は“物言わぬ社会になるな”と今から危惧してしまいます。JRにおいては“社友会”なる資本の手先である労働組合ならぬ集団が存在し、労働組合つぶしに必死である。許せない！また大手資本も組合潰し・民営化して新自由主義の中で生き残りをかけています。闘う労働組合・労働者には、卑劣な弾圧を仕掛けてくる。菅はデジタル化を「小さく生んで大きく育てる」と（竹下元

首相の消費税導入時の弁）みたいなことを言っていたが、国民が黙っていることが前提条件である。国策だから従えというのは召集令状の道である。だが、三里塚・沖繩闘争は国策であっても不条理ならば従わないと反対を貫き通しています。少数でも声を挙げることは、重要なことだと思います。

マイナンバーカード制度もうまく行っていないが、自治労つぶしに拍車がかかることは必至です。自治労潰しは戦争への協力強要（召集令状＝赤紙配り）です。戦

争反対を多くの人たちが言えるような闘いの場をつくるのが私たちの仕事だと思いません。日教組とも団結して声を挙げましょう。

羽田都心低空飛行に反対する大衆闘争も、なかなか表出はしませんが、水面下では、ずっと熾りつけています。三里塚・沖繩・横田空域・日米安保闘争といかに結合して闘いを大きくしていくことかと思いません。先日、ある会合で、今度の総選挙の「候補予定者」が「成田空港を造った理由は何だったのですか？」という基本的な質問が飛び出しました。そういう世代が、国政の場に出てくる時間の流れに一瞬、驚きはしました。後はゆっくりと話をする時間をもらいました。参加者の他の人も三里塚闘争を知らない世代の人たちでした。市東さんが1本100円の大根を作り続け、2億円の誘惑にも負けず、国策に抵抗していることも話しましたが、市東さんの闘いが思わぬところまでにも影響を及ぼしていると肌で感じました。国策反対・戦争阻止で闘いを貫いていきましょう！

沈黙は死、戦争への道



2021年7・23 五輪粉碎実力デモ

もうひとつ、東京・西部の戦争阻止大行進後の集会で、五輪に関してアスリートたちはどうすべきだったという問いがあった時、「アスリートたちの立場は問わない＝中立的立場でよかったのではないか、五輪に関する発言は不必要」という同調雰囲気の中で、『ライズ』の巻頭言筆者である杉橋さんが意を決して立ち上がり、「五輪に対して黙っているアスリートたちも問題はあるし、沈黙は許せない」旨の発言がありました。よくぞ言ってくれましたと思いが

しました。彼も鋭角的な視点を持っている人だと思いました。ジャーナリズムが五輪一色に染まり私達も同色化していく危険性の中で、一矢報いる発言です。彼の発言は鋭角的で勇氣もあるし、すばらしいと感じました。今、総選挙の真最中に「皇室」問題で騒いでいることにも敵の弱さがあるのだと実感します。

だが、報道資本（ジャーナリストたち）は、天皇制そのものには触れようとはしていません。ここも私たちが敵の懐・最弱点を突く絶好の場があると思います。もっと勉強して理論的にも天皇制そのものを崩して行きたい。

最後に足利鉆毒事件を闘い続けた田中正造翁の名言を敬意を込めて、紹介します。現在にもびつたり当てはまると思います。

1. 真の文明は、山を荒らさず、川を荒らさず、村を荒らさず、人を殺さざるべし

2. デンキ開ケテ世間（セケン）暗夜となれり

3. 何事もあきれてもふ（を）云わぬとも云わねばならぬ今のありさま

以上です（10・21）。

オスプレイ暫定配備反対！陸自10万人大演習即時中止！

—木更津10月10日行動 in 木更津— 動労千葉を支援する会・木更津 T



木更津駐屯地に陸自10万人大演習の即時中止を申し入れ

10月10日、改憲・戦争阻止大行進・千葉は、オスプレイ暫定配備反対を訴え65名が結集し、木更津駅から陸上自衛隊木更津駐屯地へ向けたデモンストレーションを闘いました。木更津駅前で、地元の闘う人士はじめ、次々に陸自オスプレイV-22暫定配備反対のリレートークを行いました。護憲・原水禁君津木更津地区実行委員会の仲間、木更津市議会議員の報告、習志野基地で闘う仲間の闘争報告など多くの発言を受けました。三里塚反対同盟の方もかけつけてくれました。大行進・三多摩の仲間から米軍横田基地のオスプレイ闘争の報告を受けました。

リレートークの後、木更津駅から木更津駐屯地へ向けて元気にデモ行進を行いました。「オスプレイイらない！」のコールが市街地いっぱい響きました。駐屯地周辺には事前に10月10日行動を呼びかける、チラシをポスティングしたので、飛び入りの人や、周辺の人々が注目していました。木更津駐屯地に到着し、ただち

に10万人演習中止の申し入れ行動に移り、大行進・三多摩の仲間と大行進・千葉の仲間が行いました。その後吾妻公園で簡単な総括と行動提起を行い、11・7日比谷結集の呼びかけが行われました。

侵略戦争に向けた陸自10万人演習と日米軍事一体化を止めよう！

この木更津行動は第1に、9月15日から11月いっぱい全国160カ所の基地で行われている陸上自衛隊全部隊を動員した史上空前の10万人演習に反対する闘いでした。「台湾有事」と称して「南西諸島」防衛を掲げる演習は中国を念頭においた戦争行為そのものです。

実際9月18日、木更津の第1ヘリコプター団は8機のCH-47大型ヘリで習志野の第1空挺団を乗せて、群馬県の相馬が原演習場でヘリボーン訓練を行いました。

さらに10月3日には20機ものCH-47大型ヘリで同じく第1空挺団を乗せて北海道東千歳演習場でヘリボーン訓練を行いました。人員だけではなく車両・火炮などフル装備の大演習です。今回はC

H-47大型ヘリですがそれが、陸自オスプレイV-22に代わるのは時間の問題だと思います。木更津駐屯地への申し入れは「10万人演習中止と、参加部員をただちに帰還させることを訴えました。10月10日行動はまさに時宜にかなった闘いになりました。

さる7月29日、米軍横田基地から第1空挺団の部隊が米空軍C130輸送機にのって、フィリピンのアンダーセン基地に直接降下訓練を敢行したことを「産経新聞」が報じました。日本の軍隊が国内の基地から直接降り立つことは史上初めてのことです。それだけ日米軍事一体化がすすんでいるという事です。

横須賀・横田・三里塚・木更津の共同闘争を発展させよう！

木更津行動は第2に、反戦・反基地闘争の大行進運動を発展させる闘いです。

木更津駐屯地は日米のオスプレイの共同整備基地になっています。米海兵隊MV-22オスプレイ24機、陸自オスプレイV-22、17機に加えて、米海軍CMV-22オスプレ

イの定期機体整備が計画されています。そのために新たに2棟の格納庫も建設されます。米海軍CMV-22の整備はスバルと厚木の日本飛行機と共同で行うというもので、それは2030年までの契約です。厚木での整備は米海軍、海上自衛隊横須賀基地と直結しています。

麻生太郎前財務相兼副総理は「台湾で大きな問題が起きると間違いなく『存立危機事態』に関係してくる」（7月5日）といっています。

8月26日、陸自オスプレイは、木更津基地から、航空自衛隊百里基地、海上自衛隊館山基地に飛び立ち、離着陸訓練を開始しました。9月13日には陸上自衛隊東富士演習場で射撃訓練等を行っています。陸自オスプレイ暫定配備は新たな段階にはいりました。木更津が再び「軍都」の歴史を繰り返すことを許さずオスプレイ反対闘争を強化しよう。

改憲阻止！戦争阻止！にむけた横須賀・横田・三里塚・木更津の共同闘争をさらに発展させよう。



各地で陸自大演習絶対反対の抗議行動闘われる

10.23 埼玉・朝霞駐屯地へ抗議デモ



9・15 東京・防衛省への抗議行動



10.23 長崎・佐世保で反戦デモ



9・15 新潟・高田駐屯地へ要請行動



10.30 東京・横田デモ



9・19 岡山・日本原駐屯地へ申し入れ行動



米中戦争をプロレタリア革命へ！

滝山猛師

岸田新政権を打倒し、中国侵略戦争阻止

自民党総裁選では安保政策の柱として岸田、高市らを先頭に軍拡路線と敵基地攻撃能力の保有論、防衛費のGDP2%以上が押し出された。

そもそも議論のきっかけは『イージス・アショア』の配備計画の停止（2020・6・15河野元防衛相）だが、7月8日衆議院安全保障委員会の閉会中審査で敵基地攻撃能力を巡る議論がおこなわれた。安倍政権は「攻撃能力の保有」を「弾道ミサイル防衛の一環として明確に位置付ける」というペテンを弄し、岸田（安倍）政権は総裁選での議論を経て中期防で具体化させようとしている。岸田、高市は敵基地攻撃能力の保有を総裁選と衆院選で前面に押し出した。

「敵基地攻撃能力の保有」とは、

言うまでもなく弾道ミサイルの発射基地など、敵の基地を直接、攻撃できる能力を保有することである。

鳩山内閣以降、歴代政権は「敵基地攻撃能力」は、敵が攻撃に着手したあとに反撃するもので、先制攻撃は含まれていない、としている。これまで政府は相手基地への攻撃は米軍にゆだね、敵基地攻撃能力は、政策的に保有しないと見解を示してきた。それを明示に転換した。帝国主義である限り敵基地攻撃能力の保有は、常に追求する課題である。

菅政権は2020年12月18日、「脅威圏（※敵国）の外から対処を行うためのスタンド・オフ能力の強化のため、中期防で進めるミサイルの整備及び研究開発に加え、様々なプラットフォームからの運用を前提とした12式地对艦誘導弾能力向上型の開発を行う（※射程200キロから900キロへ）

ことを閣議決定した。2018年末、発表の「中期防計画」には「12式地对艦誘導弾の射程を伸ばす」という表現のみが記されていた。菅政権はこれを「様々なプラットフォームからの運用を前提とした開発を行う」とエスカレートさせた。900キロ射程のミサイルを戦闘機と艦艇に搭載するという閣議決定である。その具体化として防衛省は本年8月31日に公表した「我が国の防衛と予算」報告書には12式地对艦誘導弾能力向上のための開発費用として379億円を計上した。同報告書には

「地上発射型に加え、来年からは艦艇発射型および航空機発射型の開発に着手する」と明記した。

12式地对艦誘導弾は2012年から調達が開始され、発射装置システム価格は約27億7000万円。改良型になれば価格はさらに上がる。12式地对艦誘導弾は88式地对艦誘導弾（SSM-1）と

異なり衛星から隠れた山陰や谷間などから発射できる。開発が完了しF35に搭載すれば、中国の制空権空域外から北京中枢を攻撃できる能力を保有することになる。

高市発言が強調した日帝の脆弱性

極右・高市早苗はテレビ番組（9・10朝日）で、「憲法改正が必要だ」「実効的な抑止と対処に必要な能力をわが国が保有し、日米同盟で補完する」と強調した。主語は、日帝独自の軍大化である。日米同盟はあくまでも「補完的存在」として位置付けている。

そして、「敵基地を一刻も早く



陸上自衛隊・瀬戸内分屯地に配備の12式地对艦誘導弾（左側）〈10・29南日本新聞〉



< 10・29 南日本新聞電子版 >

無力化した方が勝ちだ。使えるツールは電磁波や衛星ということになる」とも強調した。同時に「(攻撃は)向こうから発射の兆候が見えただけだ」とも強調し、あくまでも「防衛的攻撃」というペテンを装っている。その上で「強い電磁波などいろいろな方法でまず相手の基地を無力化する。一歩遅れたら日本は悲惨なことになる」と煽り、さらに攻撃能力の保有を宇宙へとエスカレートさせている。

「電磁波で敵基地を無力化する」とは、どういうことか。

現在、高市が言う敵基地を直接無力化できる「衛星兵器」は存在しない。アナリストが第一に挙げた電磁波兵器とは、高高度での核爆発を利用した「電磁パルス(E

MP: Electromagnetic Pulse)兵器を指す。EMP攻撃は、パソコン、電車、飛行機、自動車、電力網、通信網、衛星通信、電気制御された水道やガスのインフラなど、対象地域のすべての電子機器に致命的な打撃を与える。高度30キロでの核爆発により、地上で半径約600キロのEMP影響圏が生成される。高度400キロで爆発するとすれば、EMP影響圏の半径は約2200キロになり、1発で全米規模の標的に大規模破壊力となる。米帝は1962年に太平洋上空386キロで1.4メガトン級の核実験「スターフィッシュ・プライム」を行なった。当時、爆発で生じたEMPによって1448キロ離れたハワイで数百の街灯が消え、電話に影響が出た。現在ではインフラに与える破壊力は計り知れない。ロシアも同時期にカザフスタンで核実験を行ない、482キロにおよぶ通信回線が混乱した。

米軍は現在、「非核EMP兵器」を保有している。非核型対電子装置高出力マイクロ波先進ミサイルプロジェクト(CHAMP)である。CHAMPは、米ボーイングと米空軍研究室との共同研究によ

て開発された。空中発射の巡航ミサイルに搭載する非核EMP兵器であり、爆撃機や戦闘機から発射し、敵領空内を低高度で飛行させる間に強力な電磁波を放出し、敵の電子機器を破壊する兵器である。CHAMPは、高出力マイクロ波を制御することにより、狙った地域や目標に照射可能という。指向性のある強烈なマイクロ波を照射し目標のコンピュータや通信機などの電子機器を破壊する。米軍は数日で配備が可能としている。中国や北朝鮮の核兵器を発射以前に無力化できる可能性をもつ兵器だ。

米空軍は2015年5月、CHAMPをロッキード製の統合空対地スタンド・オフ・ミサイル(JASSM-ER、射程約1000キロ)に搭載することを決定した。米空軍は2019年5月、CHAMPから派生したHPM兵器を搭載した空対地ミサイル「JASSM-ER」を20発保有していると発表し、飛行中に50の目標に対するEMP攻撃が可能であることが公表された。JASSM-ERは、米空軍のB-2、B-1、B-52H爆撃機、F-15E、F-16戦闘機に

搭載可能で、F-35への搭載も計画されている。

日帝独自の開発、保有は早期には困難であろう。しかも自衛隊は現在、長射程巡航ミサイルを搭載できる戦闘機を保有していない。F15の改修をめぐっては、中期防(2019〜23年度)では2027年度までに20機を改修する計画だったが、改修に先立つ初期経費が米側要求で高騰。日米間協議が難航し、防衛省は現計画の全面的な見直しを余儀なくされた。米帝は日帝の軍事力を米軍の統制内に抑え込んでいる。仮に防衛省がJASSM-ERを購入したとしても(それ事態困難だが)、それを搭載できる航空機がない状態が続く。高市が主張する「一刻も早く」というのは現実との乖離から来る日帝支配階級の焦りと日帝の脆弱性を表しているが、このような兵器の保有は断じて認めることはできない。

反戦・反基地闘争の全国的爆発で、南西諸島・沖縄、本土へのミサイル配備阻止!日米による中国侵略戦争阻止!岸田政権打倒!へ、一切の根源である新自由主義をプロレタリア革命で打倒しよう!

池田自衛隊裁判

[連載 第3回]

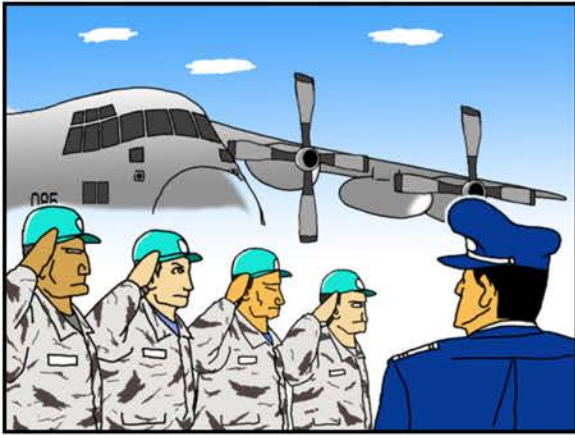
作・ヤナギ イッセイ

⑥ 帰国後も公務災害の認定されず

06年8月25日、池田さんは任務終了でやつと小牧基地に帰国しますが、このときも航空機内で座っていることもできず、2〜3席を使って横になってフライトに耐えるような状態でした。

小牧基地の通信隊に復帰しましたが、モース信号を打つこともできず、体のしびれもひどかったため、業務を遂行することがほとんどできなくなっていました。

自衛隊は当初、池田さんの公務災害の認定手続きを怠り、「海外保険」で対応させています。勤務時間内の通院も認められなかったため、通院はいつも勤務が終わった後に行きました。



⑦ 「なぜ早く受診しなかったのか」

池田さんは8月28日に、小牧市民病院の整形外科を受診。結果は、「頸部捻挫、左肩挫傷」でした。

9月8日からは、リハビリのため浅野外科内科医院へ通院することになりますが、このときも上司は「勤務が終わってから通院を」と指示します。このため帰宅時間も遅くなります。

池田さんは9月11日、小牧市民病院の口腔外科を受診。診断で「外傷性顎関節症」と言われます。口を開ける際、両側のあご関節部がずきずき激しく痛み、口を開けられない状態でした。医師からは、「なぜもっと早く受診しなかったのか」と厳しくとがめられます。早期に治療を受けなかったことで、症状が重篤化していたのです。

⑧ 医師が自衛隊へ配慮求め手紙

池田さんは9月21日には小牧市民病院の精神科を受診します。帰国前からの不眠症が改善しなかったためです。

担当医師に「仕事がついに。職場に行きたくない」と訴えます。顎関節痛や頭痛、首から肩など全身の激しい痛みと不安から、自動車の運転もできなくなるような状態でした。診断は「反復心因性うつ病、不眠症」ということでした。

同年10月1日、池田さんの症状悪化を見かねた浅野医院の医師が、自衛隊通信隊長宛に手紙で、池田さんの勤務時間等について「特別な配慮をお願いします」と要請。ようやく「勤務時間中の通院」が許されます。(次号へつづく)

